

# 財務に関する状況

- 2023 -



国立大学法人 **奈良先端科学技術大学院大学** <http://www.naist.jp/>

無限の可能性、ここが最先端 *- Outgrow your limits -*

# 貸借対照表・損益計算書の概要

## 令和4事業年度 貸借対照表の概要

(令和5年3月31日)

(単位：百万円)

資産の部				負債の部			
R4年度	(R3年度)	増減		R4年度	(R3年度)	増減	
<b>固定資産</b>				<b>資産見返負債</b>			
土地	9,276	(9,276)	0	0	(3,212)	▲ 3,212	
建物、構築物等	10,394	(10,901)	▲ 507	262	(0)	262	
工具器具備品等	2,864	(2,798)	66	701	(679)	21	
図書	491	(514)	▲ 23	357	(371)	▲ 14	
投資有価証券	200	(200)	0	1,991	(2,138)	▲ 146	
その他の固定資産	205	(149)	56	334	(401)	▲ 66	
<b>固定資産計</b>	<b>23,434</b>	<b>(23,841)</b>	<b>▲ 406</b>	<b>負債計</b>	<b>3,647</b>	<b>(6,803)</b>	<b>▲ 3,156</b>
<b>流動資産</b>				<b>純資産の部</b>			
現金及び預金	3,167	(2,942)	224	資本金	18,624	(18,624)	0
未収入金等	135	(161)	▲ 25	資本剰余金	86	(584)	▲ 497
その他の流動資産	23	(17)	5	利益剰余金	4,402	(948)	3,453
<b>流動資産計</b>	<b>3,326</b>	<b>(3,121)</b>	<b>205</b>	<b>純資産計</b>	<b>23,113</b>	<b>(20,158)</b>	<b>2,955</b>
<b>資産計</b>	<b>26,761</b>	<b>(26,962)</b>	<b>▲ 201</b>	<b>負債・純資産計</b>	<b>26,761</b>	<b>(26,962)</b>	<b>▲ 201</b>

※端数処理(切り捨て)に伴い、合計等は必ずしも一致しない。

### <資産の部について>

建物、構築物等は、前年度と比較して5億円ほど減少しておりますが、これは減価償却費に対し設備投資が追い付いていないことによるものであり、設備の老朽化が進んでいることを示しております。

## 令和4事業年度 損益計算書の概要

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：百万円)

経常費用				経常収益			
R4年度	(R3年度)	増減		R4年度	(R3年度)	増減	
教育経費	561	(565)	▲ 3	運営費交付金収益	5,795	(5,213)	582
研究経費	1,287	(1,343)	▲ 55	学生納付金収益	661	(646)	14
教育研究支援経費	1,058	(1,054)	4	外部資金収益	2,570	(2,210)	357
受託研究費等	1,491	(1,445)	46	資産見返負債戻入	0	(465)	▲ 465
人件費	3,937	(3,848)	89	その他収益	257	(175)	82
一般管理費	338	(302)	35	<b>経常収益計</b>	<b>9,286</b>	<b>(8,713)</b>	<b>572</b>
その他	42	(29)	12	<b>経常利益</b>	<b>567</b>	<b>(125)</b>	<b>442</b>
<b>経常費用計</b>	<b>8,718</b>	<b>(8,588)</b>	<b>129</b>	臨時利益	2,906	(24)	2,882
				目的積立金取崩額	20	(212)	▲ 192
				<b>当期総利益</b>	<b>3,494</b>	<b>(361)</b>	<b>3,132</b>

※端数処理(切り捨て)に伴い、合計等は必ずしも一致しない。

### <経常費用について>

長期的な財政収支の改善を目指した結果、教育経費および研究経費は前年度よりも少なくなりましたが、いっぽうで人件費は増加しております。

### <臨時利益について>





これまでの国立大学法人の会計基準では、発生した減価償却費と同額の見返収益を計上して損益を均衡させる仕組み(資産見返負債)がありましたが、令和4年度からこの仕組みは廃止されました。このため、旧基準上では以降毎年度に計上していく予定であった減価償却費に相当する額の資産見返負債を、全額臨時利益に振り替えたことにより、例年発生しない多額の利益が一時的に発生しております。

# 令和4年度の実施事業例（運営費交付金－重点戦略経費）

## 「学長ビジョン2030」について

2030年を見据えた奈良先端大の方向性である4つの「ビジョン」、ビジョンへの到達のための中長期の目標である16の「目標」、ビジョンや目標を達成するための主要な施策や取組である16の「戦略」からなります。



ビジョン	事業名	金額
 1	<社会を先導する人材を養成する課題解決型融合教育プロジェクト> UEAの配置等により、イノベーション教育の推進やキャリア支援を行い、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材の養成を目指す。	31,900千円
 2	<海外大学との連携強化による国際的な共修推進プロジェクト> 学生の海外派遣を拡大するとともに、海外学術交流協定校との国際共修プログラムの実施により、国際感覚を持った人材の養成を目指す。	60,154千円
 3	<社会変革イノベーション創出のための共創型研究プロジェクト> SDGsやカーボンニュートラル等の諸課題を社会科学的視点を取り入れて解決する共創型研究を対象に、学内公募により研究費を支援する。	13,100千円
 4	<統合的デジタル・キャンパス整備事業> 教育・研究・大学業務の統合的なデジタル化を進め、学生・教員の教育研究活動の効率化、教職員の大学業務の効率化を図る。	5,000千円

# 令和4年度の実施事業例（その他財源）

## 教育

### イノベーション創出フェローシップ（科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業助成金）

- 博士後期課程学生のうち、優れた研究能力を有しかつ研究に専念することを希望する者40名に、研究専念支援金（15万円/月）と研究費（20or45万円/年）からなるフェローシップを支給。



## 研究

### 電力非依存型発光生体分子の改変と樹木への実装（受託研究費）

- 大阪大学との共同研究で、植物に発光するキノコの遺伝子を導入。将来的には街路樹や室内照明への使用が期待される。また、このほど事業化に向けたベンチャー企業がスタート。



## 産学連携

### クラフトビール商品化（奈良先端大発 新産業創出支援事業（支援財団））

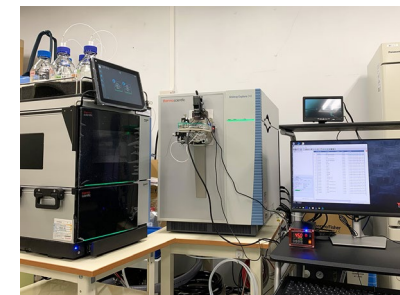
奈良市のゴールデンラビットビール社と共創し、オリジナルの酵母によるクラフトビール「うねびやま」「みみなしやま」の醸造と商品化を実現。先に商品化していた「かぐやま」と合わせて、大和三山シリーズが完成。



## 設備

### 1 細胞解析共同利用システム（運営費交付金〈ミッション実現加速化経費－基盤的設備等整備分〉）

- バイオサイエンス研究や創薬研究の加速、近隣企業等との産学連携強化、バイオサイエンス人材の育成に向け、細胞の特性を1細胞レベルで解明するシステムを導入。



# 財務運営に関わる課題

- 基礎的な運営費交付金の減少  
毎年度 約4千万円ずつ減少
- 電気料金の高騰  
R3'実績 約2.4億円 → R4'当初 約 4.9億円 → R5'見込み 約 6.0億円
- 人件費の増加  
定期昇給等により毎年度 約3千万円ずつ増加
- その他  
電子ジャーナルの高騰、施設等の老朽化に伴う更新費 など

# アンケートについて

本資料についての簡単なアンケートにご協力ください。



<https://forms.gle/5yEaYcHDV7HA7WRN7>